文化

bunka@asahi.com

無宗教でなぜ占い？ 見

「合理」で軽減できぬ不安 す

超合理的なひろゆきさんのこと。占師の指摘に「大体みんなそうじゃないですか」などと懐疑的な姿勢を逐一見せる。

しかし、妻との過去や未来について対話が進むうちに、妻との接し方を考え直しているようにも見えた。占いの後に「自分でどうにもならんもの（妻）については、確かに。（アドバイスを聞いて）やってみようと（思った）」と感想も語った。

番組は2020年4月のレギュラー放送開始からまもなく5年になる。

日本人は無宗教と言われる。統計数理研究所の国民性調査で「信仰や信心」をもっていると答えた人は18年で26％だった。特定の宗教を信じていると職場や学校で公言する人も少ない。

しかし、それでも初詣には行き、葬式では手を合わせる。宗教と意識はされないが、科学的ではない占いやパワースポットを信じる人もいる。

古くから信仰の対象としてあがめられてきた富士山。なぜ人は宗教的な何かを信じるのか　＝山梨県富士河口湖町から

推し活の隆盛

占いやヨガ、瞑想、パワースポット巡りなどさまざまな実践を含むスピリチュアリティに通底するのは、「大自然や守護霊、内なる自分など、不可視の存在と神秘的なつながりを得て自己を高め属や、初詣などの実践も含んでいる。信仰の面からのみ宗教を捉えることは適当ではないという。

教団なくても

宗教学では占いや瞑想（めいそう）、法などを「スピリチュアリティ」という分野として、考察の対象とする。

「かつての宗教は、教団という共同体への所属で信者に安心感を与える面もあったが、スピリチュアリティは所属の要素を限りなく減らし実践に特化した宗教と言える」

的な傾向だが、オウム真理教の事件で宗教への忌避感が広がった日本では時代の境目が分かりやすかった。江原啓之さんの「オーラの泉」や細木数子さんの「ズバリ言うわよ！」がゴールデン帯で放送された00年代のテレビは象徴的だった。

近年のスピリチュアリティは「ありのままの自分」を肯定しようという傾向が顕著だという。

「『守護霊になったおじいさんは、今のあなたをもっと愛してあげてと言ってますよ』。このような自分の人生を肯定してくれるような語りかけが主流になっている」

を求める人々のニーズに、今は推し活が応えているのではないか」

しかしなぜ宗教のように「神」に献身するのか。柳沢さんはその理由に、善悪や美醜といった価値判断と同じような「聖なる価値」という基準の存在を指摘する。

「本来は金銭で交換できない『聖なる価値』を推しのグッズに見いだす。それが逆説的に『節約なんてしていられない』という購買心理につながる」と指摘する。

なぜそうまでして人は宗教的な何かを信じるのだろう。岡本さんは「宗教」がなくならない理由として、自分がコントロールできないことへの不安を解消したいからだと説明する。その最たるものは死だ。「合理的なものでは軽減できない不安に応える非合理的な機能を宗教は担ってきた。人間に根源的な不安がなくならない限り宗教はなくならない」　（女屋泰之）

被災木材、楽器に活用できれば

後藤正文の 朝からロック

能登半島の木材を使って楽器を製作するプロジェクトに参加するため、石川県の輪島市門前町を案内してもらった。

金沢市から志賀町を抜けて輪島市に至るルートには、道路が波打っているところや、片側車線が崩れている場所があった。海岸線の道路からは、隆起によって船が寄せられなくなった漁港や、本来は海に浸かっていたはずの波消しブロックがあらわになっているのが見え、昨年の地震の大きさを想像させる爪痕がいくつも残っていた。

この地域特有の板張りの住宅の多くがダメージを受け、解体を待っている様子だった。被害を受けた家屋の柱や梁（はり）、壁面や床の板などには、再利用できる木材が多いと地元の方が教えてくれた。しかし、業者の数が足りず、解体される家屋からの木材の救出が進んでいないとのことだった。また、解体を急いでも、家屋は廃棄物となり、更地が増えるばかりだという。楽器の製作を通じて、被災した家屋の木材を何とか活用できないかという思いに、寄り添えたらと考えている。

仮設住宅も見学させてもらった。老夫婦が住むプレハブ住宅には、布団をしまうところがなく、ひとりになれる空間もない。布団を部屋の端に寄せ、炬燵（こたつ）を置くだけで部屋が埋まってしまう。玄関からの通路に流し台を取り付けたキッチンは、ガスコンロを置くだけで調理台のスペースが塞がれてしまう。

仮設住宅の狭さが、胸に刺さったままでいる。自然災害が多いこの国では、誰もがいつ家を失うか分からない。東日本大震災をはじめ、多くの災害を体験してきたにもかかわらず、一部の仮設住宅はそれぞれのプライバシーが保たれないほど狭く小さいままで、被災者は将来への不安を抱えたまま暮らしている。予算や建設用地の確保という課題があったとしても、社会の貧しさを表すひとつの要素として、重く受け止められるべきことだと思った。（ミュージシャン）

◇毎月第4日曜日に掲載します。

「40年間をサラッと振り返り、楽しい思い出になれば」

日本ミステリー文学大賞・東野圭吾さん

第28回日本ミステリー文学大賞（光文文化財団主催）の贈呈式が18日開かれ、受賞者の東野圭吾さんがあいさつした。ミステリーに大きな貢献を果たした作家や評論家に与えられる賞で、前回まで9年務めた選考委員を降りたとたんの受賞。ユーモア交じりに選考会の思い出を語り、会場の笑いを誘った。

「作品の
とか欠点
い。候補に
が並んで
て、どなた
ど、順番は
華やかな経
も重ね合わ
いいもんた

足場をくぐり、校舎に入る。

といっても、校舎は完成には遠かった。膝（ひざ）の高さまで白い四角い石の基礎が築かれ、その上に壁の林が立っているものの、いまだ天井板を張っていないから陽光の雨がふりそそぐし、床板もないから履物をぬぐ必要がない。

石の基礎が道をなしている、おそらく廊下になるのだろう狭い空間を抜けると、建物の向こうに出てしまった。

視界がひらけ、よく均（なら）された土地。

その土地のすみっこに、ぽつんと木造の建物がある。これは屋根も扉もあるけれど、農具小屋くらいの大きさしかなく、教育施設とは思われない。

おそらく大工や職人などの、

（詰所かな）

とミナは思った。普請が終わったら取り壊される。もっとも、案内役の山内が扉をあけて、頭を突っ込み、おずおず、

「あの」

と声をかけると、そこには大工はいなかった。

そのかわり、背広姿の男が十人ほど、ひしめいている。

いっせいにこっちへ顔を向ける。ほとんどの者は突っ立っているけれども、中央に小さな机があり、その左右に一脚ずつ椅子が置かれていて、そこには特に威風ある男が座っていた。

ミナから見て左側の椅子の、頬ひげの濃い男が、

「どうした、山内君」

「あ、大束（おおつか）校長」

と山内はその人を呼んで、

「この方が、ぜひ辻先生にお目にかかりたいと」

「辻先生に？」

と、反射的にもうひとりの椅子の男へ目を向けたのは、そっちが帝国教育会会長・辻新次なのにちがいなかった。

校長がミナへ、

「何のご用で？」

「私、英語を教えることができます。雇ってほしいんです」

ペポカボチャ種子を
試したことがある方からも
大好評いただいています

何度も気にしがちな女性に…と言えば、ペポカボチャ種子?いえいえ『南国牡丹』のご愛用者様からは「やっぱりボタンボウフウよね」と大好評!!今までペポカボチャ種子を試してみたけど…という方も、ぜひご期待ください。

野草成分を高含有!!一度でしっかり自信が持てる

スッキリ野草 なんごくぼたん

こんなに爽

20年以上も
太古の植物
気になる健

何度も気になったら
野草のプロにお任せく

創業以来、野草と共に20
な私たちがついに発見し
そ『ボタンボウフウ』です。
ではの「夜中」や「外出時」
齢を感じた時の健康をサ
野草のプロだからこそ、
と特筆成分を高濃度抽出
プセルに凝縮しました。「
し、仕方がない」と諦めず
丹』をお試しいただき、爽
を迎えましょう。